



宝永小だより

No.7

福井市宝永小学校

令和8年6月30日

学校教育目標：ひとり立ちできる子 ～心身共にたくましく、進んで学び合い、高め合う児童の育成～
めざす児童像：進んで学び合える子・協力し合える子・心と体を鍛える子・ふるさとを大切にする子

5年生 貴重な体験を積んだ宿泊学習

5月28日(木)・29日(金)

福井県立芦原青年の家

- 一日目
- ・入所式
 - ・オリエンテーション
 - ・ベッドメイキング
 - ・生地からのピザ作り(昼食)
 - ・カヌー体験
 - ・カラーリング
 - ・夕食
 - ・キャンドルサービス
 - ・入浴
 - ・反省会
 - ・消灯、就寝

- 二日目
- ・起床、洗面、健康観察
 - ・朝のつどい
 - ・朝食
 - ・清掃、荷物の整頓、荷物移動、部屋のチェック
 - ・ウォーキングクイズラリー
 - ・野外炊事
 - ・退所式

で、宿泊学習を実施しました。1日目の午後は時折小雨の降る天候となりましたが、子どもたちは仲間と協力して、楽しく充実した2日間を過ごすことができました。

子どもたちは、「集団宿泊および野外活動を通して自然に親しみ、相互に協力し友情を深め合い、きまりある生活態度を養う。」という目的をもって活動しました。どの活動も協力して成し遂げ、仲間と過ごす貴重な体験になりました。豊かな自然の中で、学校ではできない経験を積んだ子どもたちは、大きく成長できただけでなく、学年・学級としてのまとまりも、一段と進みました。



<入所式のあいさつ>



<ピザ作り>



<昼食は焼きたてのピザ>



<カヌー体験>



<カラーリングに挑戦>



<夕食>



<キャンドルサービス>



<ウォーキングクイズラリー>



<野外炊事>



<手作りカレー>



<退所式のあいさつ>

<5年児童>わたしは、宿泊学習を通して2つのめあてを達成できたと思いました。

一つ目は、友達の良い所を見つけることです。活動班ではピザ作りや野外炊事の時など、みんなが役を決めてしっかりと行動することができたので良かったと思いました。

二つ目は自分のセリフを大きな声で言うことです。セリフを覚える練習をたくさんしました。本番では自分なりに大きな声が出せた、と思いました。もし、みんなの前で言うことがあったら司会で出たときよりも大きな声を出したいです。

教職員 救急救命講習を行う

6月1日(月)

教職員を対象とした救急救命講習を実施しました。

今年度も、6月22日(月)のプール開きを前に、中消防署の救急隊の方をお招きし、具体的な救急救命の方法を学びました。事故の未然防止はもちろん、いざという時のために、一次救命処置である心肺蘇生法とAEDの取扱いについて実技訓練を行いました。また、今回はスマートフォンを使った「映像通報119」にも取り組んでみました。言葉では説明しづらい災害現場の状況を明確に伝えることで速やかな災害対応につながり、応急手当が必要な急病人やけが人に対して、より効果的な応急手当の指導を通報者が受けられるそうです。子どもたちが楽しみにしているプール学習も、安全第一で行っていきます。



<「映像通報119」に挑戦>

人権読み聞かせ、そして「自由」について考える 6月2日(火)

本年度の人権教育が始

まりました。まず、担当の教諭より、人権とは「その人がその人らしく幸せに生きる」権利である、と話がありました。そのために大切なものが3つあり、「その一つは命で、誰でも大切な命をもって、傷つけられたり、奪われたりしてはいけません。二つ目は自由で、自分らしさを大切にして生きてよいということです。三つ目は平等で、年齢や性別、国がちがっても、みんな同じ人間だということです。」と、続けて説明がありました。その後、文化・放送委員の代表児童による絵本『いやっ!といえないノニ』の読み聞かせが行われました。この絵本は「本当は嫌なのに相手に気を遣って断れない主人公の女の子・ノニが、勇気を出して自分の気持ちを伝える大切さを学ぶ」物語でした。「いやなときは『いやだ』と言っても大丈夫だ」と、子どもたちの心に寄り添いながら優しく背中を押してくれたのではないかと、と思っています。最後に、各学級で「自由とはどういうことなのか」について語り合いました。各学級の語り合いのまとめは、右の写真のとおりです。多くの学級で「自分の気持ちを伝えるときには理由も伝えるとよい。そして、相手の気持ちも大切にする。」という考えにたどり着いたようです。



<体育館廊下に掲示されている人権コーナー>

1・2年生 ○○先生と英語活動を楽しむ 6月2日(火)

本年度も福井県教育委員会のシ

ニアティーチャー事業として、○○○○先生をお招きし、子どもたちは英語活動を楽しみました。英語に慣れ親しみ、コミュニケーションを図ろうとする関心や意欲を育ててほしいと願っています。

1年生の英語活動では、まず、じゃんけんゲームを元気いっぱいに取り組みました。子どもたちは「Rock(グー), Paper(パー), Scissors(チョキ)!」という声の掛け合い方を教わり、永井先生とのじゃんけん対決を行いました。その後は、一日の始まりの動作である『get up(起きる)』と、一日の終わりの動作である『go to bed(寝る)』を教わり、その間に『wash(洗う)、swim(泳ぐ)、eat(食べる)、sing(歌う)、dance(踊る)、run(走る)』などの動作を挟んで、子どもたちは3つの動作をつなぎ、体全体で表現していました。



<1年生の英語活動の様子>

2年生の英語活動では、生き物の親子について表現の違いを学びました。子どもたちは、『子猫は、kitten』で『猫は、cat』、『子犬は、puppy』で『犬は、dog』、『おたまじゃくしは、Tadpole』で『カエルは、Frog』などを知りました。その後、グループ対抗で、生き物の親子カードを使った神経衰弱(Concentration)に挑戦しました。子どもたちは生き物の親子カードがそろそろと、立ち上がって喜ぶほど、大盛り上がりでした。



<2年生の英語活動の様子>

3年生 育もう「伝える力」 6月2日(火)

福井市キャリア教育プログラム事業の一環として、福井

青年会議所の皆様による「ちからプログラム 伝える力」の授業が実施されました。これは、自分の気持ちを相手に正確に「伝える力」を育むためのプログラムでした。まずは、自分の気持ちを正確に表現するにはどういう言い方をしたらよいのかについて考えました。次に、自分が日常使っている言葉をふり返り、使わない方がよい言葉を考えていきました。相手がいやな気持ちになったり、悲しい気持ちになったりする言葉が、子どもたちから次々に出されました。その後、子どもたちは日常使わない方がよい言葉「NGワード」を使わずに一週間過ごせるか、保護者の方と取り組むことになりました。子ども一人一人が日頃の家族との関わりをしっかりと考え、各家庭で「NGワード」を決めて取り組んでいただきました。日常の会話の中で、「NGワード」を意識し、会話のキャッチボールを楽しめたでしょうか。ご協力、ありがとうございました。



<日常使っている言葉をふり返る>

6年生 培おう「決める力」 6月2日(火)

福井市キャリア教育プログラム事業の一環として、福井

青年会議所の皆様による「ちからプログラム 決める力」の授業が実施されました。チームの中で考え、決定していく力(決める力)を培うためのプログラムでした。

子どもたちはグループになって、「墜落」プログラムに取り組みました。自分たちが危機的状況に陥り、その状況の中で何が大切なのか、一番重要なことは何なのかを、まずは自分で解答を考えました。次に、グループの仲間に自分の考えを発表し、グループで解決策を決めました。その後、答えが発表され、個人の点数と、グループの点数を競いました。最後に、決めていく方法についてふり返りました。子どもたちは自分の意見を通したり、チームの意見をまとめた



<グループで話し合う様子>

<6年児童>自分で決める力とみんなで決める力が身について、とてもよい学習になりました。自分の意見を主張するのと、相手の意見をたくさん取り入れるのは、どちらも大切だと思ったけれど、どちらかだけを優先するのは難しいので、平等に取り入れたいと思いました。